

第 2 回 宇部市常盤通りウォークアブル推進協議会 ～会議録～

日時	令和 4 年 5 月 24 日（火）16:00～17:00	
場所	宇部市役所 3 階 3-3・3-4 会議室	
出席者	協議会	市長（会長）、榊原委員、宋委員、宮崎委員、熊谷委員、末次委員（中野委員の代理）、江嶋委員、錦織委員（松本委員の代理）、野嶋委員、大久保委員（大下委員の代理） ※岡松委員欠席
	事務局（国）	国土交通省 中国地方整備局 山口河川国道事務所 尾畑総括保全対策官 交通対策課：三浦課長、古瀨係長、山田技官 道路管理第一課：橋谷課長
	事務局（市）	都市政策部：村上部長、磯中次長、福田次長 中心市街地活性化推進課：渡辺課長、野村副課長、安部係長、光木

議事概要

事務局（市）から別添【資料 2】に基づき説明を行った。

意見等については、以下のとおりである。

(1) 「宇部らしい」ウォークアブルなまちを表すコンセプト

- ・「縁側」や「Terrace」という表現は良い。私的な空間と公的な空間との接点を意識することは重要である。
- ・「ときわ Terrace」は、良い言葉である。
- ・キャッチフレーズについては、市民の皆様に様々な場でウォークアブルやコンセプトについて、情報発信を行っていくことが重要である。

(2) 地域別ゾーニング（エリア別特徴と方針）

- ・ゾーニングをしていくのは少しタイミングが早い。
ゾーニングするのであれば例えば、
テラスゾーン・・・誰もがアクティビティや経済活動を行う場
真締川ゾーン、ウォーターフロントゾーン
という 3 つの大きな視点でゾーニングする方が、より特色を発揮してダイナミックな案が浮かぶのではないかと。
- ・様々な利活用が適用できる場所なので、細かいゾーニングまでは必要ないと思う。
- ・検討部会でもゾーニングは早いという意見があったため、現在のゾーニングを強化するという緩やかな感じで示している。これから検討を進めていくなかで、エリアの特徴が強くなると考えている。時間帯や曜日によってターゲットが変化する、真締川・琴芝商店街・ウォーターフロントへの繋がりを意識することが必要であることは部会の共通認識としてあった。

(3) ウォークアブル区域

- ・ウォークアブルの視点では、少し離れた駐車場から歩いてもらうということが必要であるため、方向性としては良い。
- ・警察との協議によるが、縦方向（南北方向）の車両規制も必要に応じて考えていくべきである。
- ・多くの人が車で来街するが、公共交通を活用するような視点も持ってほしい。
- ・常盤通り周辺の駐車場の利用は平日が多く、休日は少ない気がする。そうであれば休日は銀

行など民間の駐車場の活用の可能性もある。必要に応じ、利用状況の調査を行うべきである。

- ・駐輪場が少ないので、併せて検討してほしい。

(4) 常盤通りの景観

- ・市がとりまとめた基本設計では、植樹帯の街路樹をケヤキで統一する方針となっているが、部会での意見や本協議会により、その方針が変わることがあるか。

→（事務局）部会においてはウォークブルという視点で議論していただいている。基本設計の方針は踏襲していくが、歴史的に必要な街路樹を残していきたいという部会でのご意見をどのように計画に取り込むことが出来るか今後調整していく。

(5) その他

- ・旧山口井筒屋宇部店の利活用について、具体的な利活用方針が分かっていない。その方針によりゾーニングも変わってくるのではないか。

→（事務局）公共機能として「子育て支援機能」や「くつろぎ機能」は決まっており、民間に日用品の販売や飲食店機能等、具体的に提案していただくのが今からの段階である。旧山口井筒屋宇部店の利活用について、常盤通りのウォークブル化と一体的に考えていく。12月議会で概ねの方向性が決まるので、それまでに、このような場で情報提供を行い、合意形成を図りたいと考えている。